

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作った理念を目につくところに掲示し、共に歩み、共に協力して共通の意義として実践につなげていく。	職員一人ひとりの理念を掲げ、全職員の理念としているが、運営推進会議で意見をもらい、事業所としての理念を検討中である。	地域密着型サービスの意義を全職員で話し合い、事業所としての理念を作り上げていくことを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の畑に散歩に行ったり近所の人たちと話していると畑の野菜や桃の枝木をいただいたりしている。また施設敷地内に畑があり耕していると近所の方々が寄ってきて、アドバイスや畑を耕したり、肥料を蒔いて下さる。母の日が近づいたころに感謝の気持ちを伝えるに行く。	開設前から、自治会や小・中学校、保育園に声をかけており、自治会の会合に出席・職場体験・総合学習で朝顔の栽培・園児の訪問や人形劇観賞等、積極的に取り組んでいる。また、会報を定期的に近隣に配布したり、散歩や出勤時に挨拶を交わす等日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌さくらつづりを発行して地域の方々にお知らせしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開いており参加された方々から貴重な意見に耳を傾け施設の中で話し合い実践につなげるよう努力している。	民生委員・地域の方・地域包括・交番の方・利用者・家族のメンバーで開催している。ホームの状況・活動報告をし、情報交換や意見をもらう大事な機会としており、サービス向上に活かしている。理念について意見をもらい、検討している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員から相談に乗ってもらい、疑問に思ったことや今問題としていくことを明確にして少しずつ問題を解決できるような気づきを感じ取れるよう助言や指導をしてもらっている。	日頃から密に連絡を取り、不明点を確認したり、問題のケースを相談している。南区の居宅連絡ネットに声をかけてもらい、参加の予定である。地域包括には、ADLの低下防止の取り組みを相談し、アドバイスをもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待についての勉強会に参加させてもらったりして頂いています。施錠に付いては日々検討中です。	外部研修に3名が出席し、伝達講習をしているが、もっと学ぶ機会が必要と感じている。マニュアルも整備中である。玄関は施錠しているため、解錠に向けた取り組みを検討中である。	禁止となる具体的な行為について学ぶ機会を持ち、様々なケースを取りあげ、全職員が理解し、玄関の施錠も安全を確保して、自由な暮らしを支援するための工夫等、取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互い職員同士で言葉使いや援助に対してその都度気付いた時に注意し合い意見の違うときは理解しあえるよう話し合い納得してもらえるよう努力している。高齢者虐待防止関連法については事例を通して「こんなこともどと思う内容を乗せた資料を配り気づいてもらえるように努力している。	利用者の様子や状態を観察し、虐待防止に努めているが、学ぶ機会が少ない。ホーム内では普段の言葉かけで職員同士が注意を払っているが、時折口調が強い時もあったが、個人の問題ではなく全体の問題としてとらえ、日頃より話し合いを設け、防止に取り組んでいる。	マニュアルの整備、外部・内部研修・勉強会を充実させて、高齢者虐待関連法を理解し、共通した認識でケアに臨み、虐待防止に努めることが望まれる。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に付いて資料をもらい入居者様の援助の中で該当する場面が出てきたときに養護される権利を確認することが出来ても勉強不足で職員が理解していない所が多くある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要な決めごとで締結前に十分な説明や質問に応じて家族の方に対応している。また入居後面会時なども何かありましたらいつでもお話し下さいと一声かけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や訪問時は必ず現況報告と共に気付いたことを伝え、気軽に話して頂ける雰囲気作りをして意見を頂戴しています。	意見箱を設置しているが、面会時や家族会で直接話される方が多い。積極的に声かけし、気軽に面会に来たり、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。3か月に1回、家族会を開催している。家族会の回数や日にちの意見をもらい、検討した。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろからいつも意見提案に耳を傾け、職員に対して声掛けをしている。	意見を言いやすい雰囲気を作り、話してもらえるようにしている。不安材料を取り上げ、早期解決し、ケアに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の責任に応じた勤務状態と実績を把握して改善を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体的な能力向上のために外部研修の機会を運営規程で記載されているが、実際は勤務体制の人数が限られていて、なかなか研修に行けない状態である。また管理者主催での勉強会は行っているが外部の方からの研修はほとんどしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のグループホームや小規模多機能事業所に訪問させて頂き勉強させて頂いています。新人職員には外部研修を通じて他業者との良いところを見習い実践につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話に耳を傾けゆっくりと話を聞かせて頂き、ご本人様の馴染みの人や物、場所などを把握して、安心して暮らせるように支援して行けるよう常に努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の様子をご家族様からお聞きし、今不安に思っていることや要望を聞く。ご家族様と一緒に考えていく。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が求めているサービスを総合的に判断、今、必要としているサービス利用を出来る環境にしていく、他のサービスが必要な時は、家族と話し合い納得のいく対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のお好きな家事や興味のあるものを、して頂きその中から優しいアドバイスを頂いている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの様子を面会時や電話でお伝えすると共に、ご家族様には、ご本人様にいつも関わりを持ってもらい相互的に情報を共有していけるよう努力している。	ケース記録の他に、居室担当が毎日記入する連絡帳を作成しており、家族が来た際に見てもらっている。日々の暮らしや気付きの情報共有に努め、家族と共に支えていく関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中で好きなことや昔のやっていたことを聞くことによって、ご本人様が今何をしたいのかご本人様自身が自分が何が好きなのか理解される。個別ケアで美容院やかかりつけ医など・家族の支援のもとで行っている。	個々の馴染みの人や場を把握している。自宅や美容院・入院してる家族の見舞い等、職員が連れていったり、家族にお願いすることもある。利用者の家族や知人との関係を断ち切らないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで皆様に声をかけて一緒に行く。その時職員が声をかけてレクリエーションを盛り上げにこやかな雰囲気にし皆を笑顔になって頂く。本人の言動を見て職員が仲介に入り良い関係を築き上げる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入居者様のお見舞いに行ったりおたよりを出したりして、関係性を断ち切らない様にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で本人から希望要望に沿うようにしている。それが困難の場合にはどうしたらよいかご本人様に納得して頂ける対応に努めています。	何も訴えてこられない方に対しても、隣に座り寄り添うことで話してくれることもある。表情の良い時、目が合った時、言葉が出やすい時などタイミングを見ながら一人ひとりに関わり、思いを聞いている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供を含め家族や親せき、本人、ケアマネから分らない点などを電話で聞きお話を伺っています。	わからないことについては、まず本人に聞くようにしている。今後センター方式を用いアセスメントを行なっていく予定である。	利用者がその人らしく暮らしていくことを支援するためには、十分な情報収集とアセスメントが必要であり、早急な体制作りに期待したい。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録から情報をもらったり一人一人に関わりご本人様からお話を聞いて現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が言っている言葉をご家族様に伝えてご家族様からも意見をいただき計画を行い職員で定期的にモニタリングを行い介護計画を作成している。	毎月の職員会議でモニタリングを行なっている。計画は6ヶ月に1回見直し、又状態の変化があった場合はその都度見直している。利用者の意向を反映させた計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝の申し送りや健康記録表、ケース記録等を見て職員同士で情報共有し介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化を見極め一人一人に対し個々のケアが出来るように職員同士情報の共有し柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々から声をかけて頂き、小学校の運動会、保育園の行事、夏のお祭り他、お誘いがあり、有難く寄せて頂き楽しく過ごしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元協力医の方が安心して掛かれるので納得頂いた上で適切な医療が受けられ受診をして頂いている。緊急時の対応なども適切な支援を頂いている。	受診同行は、家族にお願いし、希望するかかりつけ医に受診しているが、遠い方は協力医をかかりつけとする場合が多い。月1回協力医の往診があり連携している。認知症の専門医への受診は管理者が同行し情報提供を行ない、家族に受診結果を報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の様子を観察し、必要時かかりつけ医の医師に相談し助言を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しても時々様子を見に行き、病院関係者ソーシャルワーカーや作業療法士に連絡を取り情報を頂き施設内の情報をお知らせし、連携に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来ることを明確にし家族からも理解を頂いている。	入居時看取りはしない方針であることを家族に説明している。状態の変化に応じて適切な施設への申し込みを勧めるなど早めの対応に心がけているが、今後病状が進み、さくらの里での生活が困難になるということに不安に感じている家族もいる。	利用者と家族のニーズを汲み取った上で、職員間で対応し得る介護について話し合い、家族と方針を共有し不安を軽減することが望まれる。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使用した講習や急変時の時の連絡網を作って緊急時にそなえている。	年1回消防署の協力を得て蘇生法や誤嚥時の対処方法の訓練を行なっている。職員からの要望で今後応急手当についてのマニュアルを作成する予定である。	すべての職員が実際の場面で対応できるようマニュアルを整備し訓練を行なうことが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は避難先を想定し、地元の方からも避難訓練等で協力頂き、地域の連携を築いている。	年2回避難訓練を行なっている。昨年度は夜間の火災を想定しての訓練と、地域と合同の防災訓練を行なった。地域との連携を図り、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、誇りやプライバシーを傷付けない様にさり気ない態度で接している。	年長者として敬意を払い、毎日勉強させてもらっているという気持ちで接している。過剰な介護はせずとにかく声をかけながら本人の気持ちを大切に、持っている力を発揮できるようにサポートすることが、人格を尊重することと考えている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話から、何を気にしているのか、したいのか自然の会話の中からヒントを見つけ少しでもご本人様の気持ちに沿うように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはある程度決まっているためその流れで生活されていますが、ご本人様がお話することに身を傾け、スケジュール調整をし、ペースに沿うように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家に居た時から使用していた化粧品を使って頂き整容の時は意識して鏡を見て頂き髪を梳かして頂く等の支援をしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人のこのみを聞いて好きなものも嫌いなものも美味しく食べられるように工夫している。食事の配膳や下膳は協力的に運んで頂いています。	利用者の好みを把握し職員が彩りやバランスに配慮した献立を立て、テーブル拭きや皮むきなど手伝ってもらいながら調理し、一緒に食べている。様々な効用がある「良く噛むこと」を重視し、以前ミキサー食だった方も段階を踏みながら普通食にすることができた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の健康記録表等で、食事量、水分摂取量を入居者様全員の把握をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯磨きする方には見守り介助を行い、義歯の方には職員がお手伝いさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解しながら出来るだけ自立支援に努めている。	定期的に声をかけ、なるべくオムツは使用しないようにしている。失敗してしまったときは本人が傷つかないように手早く対応し、言葉がけにも配慮することで、プライバシーを守ることに努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いてお通じの日を職員で確認している、水分量や食事は毎日確認し、状態によって主治医に相談をして助言をもらっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日などは、職員の勤務体制の都合で決めてしまっていますが、気持ちに沿うように入浴して頂いています。	拒否される方もいるが日にちを変えて促し、週2回入浴するようにしている。畑仕事で汗をかいた時など希望があれば、いつでも入ってもらっている。お湯は1回毎に落として掃除することで、次の人に気兼ねすることなく、気持ちよく自由に入浴することができる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の起床、就寝時間を把握し、本人ペース、リズムを崩さない様に支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個人個人の情報が一冊のファイルになっていて、どんな時でもすぐ確認できるようになっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当職員を決めているため、一人一人の生活歴や役割嗜好品、楽しみごとを援助の中で見出し実践につなげるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人に合わせて外出できるようにしているがご本人の希望する一時帰宅には家族の協力が必要である。	転倒防止に十分配慮するため、全員での外出より利用者の希望に合わせて洋服の買い物など個別の外出支援をしている。イベントなど全員での外出時はスタッフを増員するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金の所持は行っていないが職員と一緒に買い物に出かけるときは食費の一部を入居者様用のお財布として持って頂いて、欲しい物を買ってもらうようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて自分から電話したり手紙を書いて頂いたものを届けたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が過ごしやすいように室温明るく、TVの音量他入居者様の声を聞き設定しています。床なども少しの段差のへごみが無いよう設計士や専門家が定期的に見回りに来てもらっている。	風通しのよい明るいホールや廊下にはソファが配置してあり、ゆったりと過ごすことができる。壁面には利用者の作品や写真が飾ってあり温かな雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が談笑できるようにソファやテーブルがあります。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から使用しているものを持って来てもらったり家具や仏壇なども持ち込んで頂いている。	窓からは畑など広い敷地が見渡せ開放感がある。使い慣れたものを自由に持ち込み、居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室に果物の名前が付いており入口には、ご本人様が分かる飾りものが付いている所もあります。皆さんが集まるホールでテーブルや椅子なども座る場所が自然と決まっている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない